

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200238		
法人名	医療法人社団明佑会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	熊本県八代市渡町1717番地		
自己評価作成日	令和2年2月7日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロアから山々を望む静かな環境の中にあり、日中はフロアで利用者の皆様と一緒にのんびりと過ごしています。ホーム裏の菜園では季節の野菜が育ち、ポランティア、園児、同敷地内の施設の方々と収穫を行い、採った野菜は食卓に上がり美味しく頂いています。季節ごとの行事も保育園児の慰問、花見、芋ほり、妙見祭の馬、ガメの訪問があり季節感を味わって頂いています。医療面では毎日の健康状態をクリックに報告し、健康管理を行い主治医、看護師、薬剤師、作業療法士、言語聴覚士、介護と連携し安全で安心した生活をおくって頂けるよう支援を行っています。また、週三回の身体機能、体調に応じたりハビリテーション、隣接する施設でのウォーターベッドによるマッサージも行い快適な生活をおくっておられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々の表情を映し出す球磨川を間近にしながら過ごせるホームは、開設時から医療支援の充実と、「笑顔」と「穏やかで安心した暮らし」を掲げ、管理者を中心に職員チームワークを発揮した支援が展開されている。ウッドデッキにはザルなどの台所用品と共に、入居者と一緒に収穫した大根が切干しされており、ホームの穏やかな日常を窺うことができる。目でも楽しめる職員手作りの誕生ケーキや敷地内の菜園管理は、地域の方々に支えられ、保育園児との芋ほりなど「交流の場」として変わらず活用されている。活動の様子は写真に撮り画面で流されており、運営推進会議や来訪の家族にも公開されている。これらの継続した取組が信頼につながる一つと思われる。移動等が殆どなく馴染みの職員による日々の暮らしは、入居者に更に穏やかな時間を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関フロアに提示している。毎週月曜と月始めの一日には朝のミーティング時に唱和し意識付ける事に取り組んでいる。利用者の気持ちに寄り添い、地域の方、訪問の方にも積極的に挨拶を心がけている。	理念を法人と共有し、地域に長年信頼されてきた医療機関の姿勢を受け継いでいる。年度目標(行動目標)には、やさしい声かけ、適切な言葉づかい、目線を合わせて会話する、笑顔で挨拶の4項目を掲げ、特に車椅子利用者が多くなったことで、腰をおろし、目線を合わせて話し、聞くことを心がけている。年2回の個人目標設定に合わせ、管理者は職員一人ひとりと面談し、理念の振り返りをおこない、人材不足が叫ばれるなかにあっても、安定した職員体制となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春から秋にかけて施設裏の畑で栽培している多様な作物を地域の方、学生、保育園の子供達を招待し、一緒に収穫を行っている。妙見祭前には馬とガメの来訪があり、正月には地域の神社への参拝を行った。資源ゴミの日はゴミ選別の手伝いを行っている。	地域でのホームの存在が浸透し、広い菜園は人々の協力で耕され、季節ごとの野菜の収穫時には地域の人々や、保育園児が訪れている。法人の有料ホームには、散歩を兼ねマッサージに出掛け、合間で保育園児との交流を楽しんでいる。地域資源を活用した外出や、隣接する高校にお隣さんとして琴の演奏会に参加し、各学校の実習の受け入れにも積極的に尽力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度より他グループホームと協力し球磨川祭りへの参加、認知症への理解を深めるラン伴への参加を行った。認知症サポーター研修を継続して行っており多数の参加があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はクリニック院長より認知症をテーマに医学的な観点から見た勉強会を開催し、委員の方と共に認知症について理解を深めた。現在行っているケア事例も発表しアドバイスを頂いている。	運営推進会議は定例化しており、家族にも参加を依頼している。会議の機会を利用し、終了後にはADE講習や、春の花見を通じて交流を深めている。本年度は特に、認知症ケアをテーマに、法人医師による認知症の方への対応や、基本姿勢について事例を通し、分かり易く紹介し、参加者から好評を得ている。	ホームでは地域の学校や専門学校などから、実習生を受け入れており、今後、運営推進会議に関係者の参加を依頼することで、更なる意見の拡充につながることを期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール、電話で研修会、研修時の必要な情報を頂いた。運営推進会議時、町内会長、包括担当者、市役所からの情報を頂き、職員で共有している。市の職員の方にもRUN伴に参加頂いた。	運営推進会議への行政の参加により、入居者の現状や地域交流の取組を発信し、理解や信頼を得ている。普段の情報はメールでやり取りし、本年度は認知症啓運動「らん伴」に行政担当者とともに参加している。管理者は必要に応じて行政を訪れ、友好的な関係を継続しており、事故報告については、この1年の書類提出はなく、ヒヤリハットの効果が表れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会での問題点、改善点をスタッフで理解し不適切ケアについても学んだ。研修も行った。行動を制限する声掛けには引き続き注意が必要で十分気をつけた。	身体拘束の指針についてホームの姿勢を明らかにするとともに、時代背景に対応し内容の見直しを行い、新しく作り直している。職員は年2回のアンケートや、ニュースなどの事例をもとに話し合い、身近なこととして捉え、拘束をしないケアに向け意思統一を図っている。日中の玄関は常にオープンにし、居室にはセンサーマットなどは使われておらず、職員の介護力により支援している。	管理者はスピーチロックなどの不適切ケアについては、常に気を引き締めて対応したいとしており、今後も研修の機会や注意喚起し合える環境作りを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の具体的な行為を理解し、言葉使いからも虐待に繋がる事を念頭に置き防止に努めている。急いでいる時にでも丁寧なケアをする様に心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH部会、市の研修会に参加して制度を理解するようにしている。地域包括支援センターの担当者より事例、対応を学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時分かり易く説明をし、納得して頂くようにしている。ご家族面会時も近況報告を行い、理解を得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で現在の状況、取り組み事項を説明している。ご家族からは積極的な意見は聞かれないが、面会時個別に話を聞き要望等、今後の対応に活かしている。手作りのお菓子や、自宅で採れた米、果物、洗剤や柔軟剤も頂いた。	家族の中には夕方の仕事帰りに入居者の顔を見に寄られたり、自宅で採れた野菜などを持参される等訪れやすいホームであることが窺える。家族からの入居者の義歯や、前開き下着に対する意見や問い合わせに応じ、医師の見解や入居者の思いを通じて話し合い、下着についても現在は必要がない旨を伝えている。入居者の意見や要望は日常の暮らしの中で聞き取り、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のケアカンファレンスで利用者の状態を理事長に報告し情報を共有している。毎日のミーティングでスタッフの感じた事や意見を聞き、食事形態やケア時の様子、反応、見た事、発語内容等について気づきを出しケアに活かしている。	週1回のカンファレンスや月のミーティングでケア課題や業務改善に向けた話し合いを行い、職員意見が反映されている。職員は普段から気づきや要望を出し合い、風通しの良い職場環境を目指しており、3ヶ月ごとの接遇のアンケートなどで自身を振り返りながら、安定した職員体制となっている。	言語聴覚士(ST)、理学療法士(PT)、調剤薬局など、法人との連携が確立している。運営推進会議への参加や日常的に相談事に応じてもらいながら、入居者の生活を支えており、継続した支援体制が大いに期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況に応じて、勤務時間の調整など働きやすい職場作りに努めている。希望休を踏まえたシフト作成を行い、融通性や有休取得の推進を行い、リフレッシュできるよう配慮して。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加できるよう取り組んでいる。GH部会の研修には毎月4名程参加できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会への参加を積極的に行っている。一緒に研修会、グループワーク、今年度は多くの行事(くま川祭、RUN伴)への参加ができた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、本人に必要なサービスの提供を行っている。聞き取りが困難な場合はご家族に聞き取りを行った。出来るだけ孤立しない様声掛けを行いコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に同席していただき、ご家族様の困り事等を傾聴している。面会時生活の様子を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、状態の説明、今後の経過を説明している。他サービスの状況も説明した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆さんに声掛けし、今日の様子を見ている。スタッフは利用者と一緒に昼食を食べている。出来る家事作業を探し一緒に行っている。(食器洗い、テーブル、盆拭き)干し大根、干し柿、梅干し作り等もアドバイスを頂きながら行った。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GW、お盆、お正月は帰宅の声掛けを行っている。面会時には近況報告を行い喜ばれた事、嫌がられた事等を説明している。状態に変化があった場合には常に報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する老人ホーム、通所に友人、知人が利用されているので面会に行っている。ご家族、友人、知人の面会があった時には、お茶、コーヒー等を出しゆっくりとして頂き、生活の様子を話、昔話、思い出等を聞いている。	入居者は家族の面会を心待ちにされており、親戚や同僚の面会も継続されている。有料ホームにいる知人との面会は互いを行き来しながらひと時を過ごし、入居者の楽しみとなっている。菜園での野菜作りも馴染みの仕事として定着し、草取りや収穫に精を出されている。ホーム建築に携わった方(棟梁)の入居は、自身の誇りであり安心して過ごされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し会話の話題作りを促している。お世話好きな利用者様には、利用者様の間に入りお世話をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した入居者様のご家族(ご主人様)の訪問があり、談話したり、相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	着替えの服、入浴の希望等本人様の意向を確認しながら実施している。訴えや発語があった内容を大切にできるだけ希望に沿う様にしている。	開所時に比べると自ら要望などを出される方は少なくなっている。職員は寄り添いながら話を聞く中で、したいことや、食べたい物などを引き出し、可能な限り応じることが出来る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や奥様が訪問される際、本人様の好まれる物やご自宅での生活ぶりを聞き、現在のサービスと照らし合わせ心地いいケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、水分量、食事量、排泄等をタブレットを活用し本人様の状態を把握するよう努めている。入浴時の身体チェックも行っている。OT、STにも運動機能、嚥下状態へのアドバイスを頂いた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りを細かく行い、気になる事、この先推測できる事等話し合い介護計画へと反映させている。他訪問からの意見やアドバイスも取り入れている。OT、STからの意見も取り入れている	入居者の意向を優先し、家族や前施設の情報等をもとにプランを立案している。遠方の家族には電話や面会時に入居者の現状を伝えながら、ホームへの要望などを聞き取りプランにつないでいる。PTの指導により杖の使用を促されたものの、自身はまだ、手すりなどを使いながら移動しており、本人の思いを優先した内容等も盛り込んでいる。2～3ヶ月を目途に評価し、現状に即した内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本年度よりタブレットを購入し、グループホームだけでなく他事業所との情報の共有も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	八代事業所の合同の芋ほり、運動会、保育園の慰問、他事業所との交流も行っている。月、水、金曜日はデイケアのウォーターベッドのマッサージも利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事等の情報を頂き参加している。妙見祭の馬、ガメの訪問、ボランティアによる芋ほり他の畑作業も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックにて定期受診を行っている。受診時は立ち合い病状、経過を報告している。訪問歯科、眼科受診も連絡し日時の設定を行っている。必要に応じ訪問看護も実施した。	本人・家族の同意のもと協力医による定期受診や往診がおこなわれている。隣接しているクリニックであることや以前からのかかりつけ医であった方、状況や雨天時は往診を支援されるなど、家族やホームにとっても安心につながっている。眼科などの専門医については、家族が対応されている。歯科については、必要に応じ支援されており現在、義歯作成をされている方もおられる。	毎朝クリニックへの状態報告や必要に応じた訪問看護支援がおこなわれ、職員は表情や食事、歩行状態など日々のかかわりから健康管理に努めている。今後も入居者の状況を家族と共有しながら、適切な医療支援の継続に期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝クリニックへ状態報告を行っている。熱発、疾病、食事量、排泄等服薬の情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に連携シートを渡しホームでの状況、病状を報告している。今年度は入退院者はいなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状、経過、食事量等主治医に報告し、指示を仰ぎ情報を共有している。ACPの研修会にも出席しご家族に最後に受けてほしい医療、看取りについて記入をして頂いた。主治医からご家族との面談の希望があった場合には日程調整、連絡し一緒に立ち会っている。	入居時に指針をもとにホームの看取りへの取組を伝え、「人生の最終段階に受けてほしい医療（私の想い）」について、その時点での確認を行っている。また、内容の変更は可能であることや、相談事にはいつでも応じることを申し添えている。主治医や法人PT、OTとの連携、家族が泊まりこみ寄り添われたり、遠方の家族も何度も面会に来られる中で、職員もチームワークで終末期支援がおこなわれている。今年度は、急変や事故発生に備え、運営推進会議の中で、AED使用や心臓マッサージなどの訓練を実施している。	看取り支援後は、本人を偲びながらカンファレンスがおこなわれている。開設時から「笑顔」と「穏やかで安心した暮らし」を支援しており、今後も日頃のかかわりを大切に、入居者の日常を支えていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて救急救命講習を実施している。AED使用法、心臓マッサージ等の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。防災マップを貼り付け避難場所を確認した。3日分の非常食備品も準備している。避難確保計画も研修に参加し作成予定である。	今年度は11月に夜間想定消防訓練で水消火器の使用法も学び、3月には昼間想定での訓練を予定している。訓練には防災業者の参加を得ており、消防署員2名による立ち入りでは、特に問題なく終了している。自然災害についても2月に研修を行っており、防災避難計画書の提出も行っている。備蓄はホームで3日分を確保している。	防災避難訓練を11月、3月と定め、防火管理責任者を中心に有事に備えている。今後は訓練に家族の参加を呼びかけ、意見や気づきなどを受け取ることにもよいと思われる。取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの訴えには速やかに対応し、本人の了解を得てから排泄の後始末をするようにしている。入浴中も介助のスタッフ以外はなるべく入らず、湯加減、洗身タオル、洗身の順番、入浴時間等希望を伺いながら対応している。	個々の尊厳やプライバシーへの配慮については、言葉使いに加え、本人の了解を得た後、排泄の始末をすることや入浴時の洗身の順番なども希望を聞きながら対応するなど細やかな取組である。呼称は苗字にさん付けを基本とし、方言を交えながらも馴れ合いにならないよう、職員間で周知を図っている。写真掲載など個人情報の使用にあたっては、本人・家族の了解を得ており、面会記録は日誌に記入することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を待つようにしている個人によっては選択しやすいよう2択する言葉かけを行い、自己決定ができる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決めていない。出来るだけ入居者様意の向に沿えるようその方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回散髪を行い、爪切りや、髭剃りも行って。入居者様と買い物にも行き本人様自ら洋服を選び購入されている。爪にもマニキュアを塗ってさしあげたら大変喜ばれました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付けは衛生面を考慮し専門職員が行っている。、食器洗い、台拭き、お盆拭きは手伝って頂いている。畑で採れたじゃがいも、さつまいもと一緒に皮むき、スライスしおやつを作った。切り干し大根、干し柿作り、梅干し、梅酒作りも行った。	現在、調理は朝のみホームで行っているが、昼・夕食は隣接する法人厨房から、ミキサー食も含め届けられている。元旦の屠蘇・おせちをはじめ、行事食や1日は赤飯が提供されている。また、手作りの誕生ケーキも夏場は、家族が持参されたスイカを器としてデコレーションするなど毎回工夫を凝らし、ホームの特徴の一つになっている。入居者が調理に関わる機会はないが、台拭きや食器洗いは日常生活の一部としてできる方に行ってもらっている。また、菜園で収穫した大根を切干にしたり、職員が持参した梅を使った梅干しや梅酒、干し柿作りなども入居者の出番が用意されている。	野菜の収穫、保存食作りなど入居者が腕を振るう機会を今後も支援いただきたい。また、検食は行われていないことから、介助や見守りを行う中で把握した、入居者の感想や思いなど今後も代弁者として厨房にあげる機会を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。個人の体調など考慮し形態変更、代替食品の対応も柔軟に行っている。常に数種類の飲み物を提供できるよう準備し好みの物を入浴後や食間に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが難しい方は週一回の訪問歯科を利用されている。食後は口腔ケアを行い、就寝前は義歯を外し洗浄し洗浄液に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や動作で排泄サインを出される方もいるので見逃さない様努めている。尿意があれいまいでオムツ対応中の方でも訴えがあればトイレでの排泄を支援している。独歩の方には夜間でも安心してトイレの場所が分かるように付き添っている。	個々に応じた排泄用品や声掛け、誘導などを職員間で共有し、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜のみパットを併用しながら布パンツで過ごされる方も1名おられる。現在ポータブルトイレを使用される方はおられず、使用しない間は別の場所で管理している。夜間もトイレを使用される方には安心や安全面からも、付き添いを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配ったり、芋、バナナ等食物繊維や乳製品の提供を心掛けている。排泄介助時に腹部マッサージを行い自然排便を促している。朝食時は牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	更衣室は適温に調整し確認している。好みの洗身タオルやシャンプーを使用したりお湯の温度、深さを調節している。拒否の強い方には入浴時間をずらしたり、職員(男性、女性)を交代し気分転換を図り柔軟な取り組みを行っている。	脱衣所や岩風呂風の開放感ある浴室は広めであることから、冬場の室温管理には特に注意を払っている。また、湯温や深さも好みや身体状況に応じて調整している。月曜から土曜まで入浴の準備を行い、週3回の支援に努め、着替えや洗身などできることは行ってもらっている。シャンプー類はホームで備えているが、中には使い慣れた品を用意されている方もおられる。拒否がある場合は、時間や職員を交代するなど、無理強いすることなく支援している。広い浴室であり、床や蛇口、排水溝などの掃除には時間を要するが、清潔に管理している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な活動を取り入れ、メリハリある生活で過ごせるよう支援し夜間の安眠に繋げている。眠れない方には温かい飲み物を提供し声掛けし対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるよう配慮している。薬の変更があった場合でも薬剤師と情報を共有し安全に服薬して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに菜の花、梅、桜、富士の花を見学に行っている。週2回のリハビリ、週3回のウォーターベッドでのマッサージを行っている。好みに合わせてコーヒー、ココア、紅茶、アップルティ、お茶、アクエリアスを用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社の参拝、ふるさと祭り、コンビニ、買い物等の外出を支援した。新幹線見学も行った。正月はご家族との昼食会(焼き肉)、1泊2日で玉名温泉へ姉妹、兄弟と出かけられた利用者様もおられた。	敷地内の散歩や玄関先での日光浴、隣接施設でのイベントへの参加、近隣コンビニでの買い物など、入居者の状況に合わせて身近な外出を支援している。また、初詣や季節の花見(桜・菜の花・梅など)、買い物、ふるさと祭り(坂本町)への外出など、地域資源を活用しながら外出の幅を広げている。ホーム菜園は地域の方々の協力により、季節に応じた野菜やさつま芋が植えられ収穫を楽しんでいる。家族の協力としては正月の帰省や墓参、兄弟、姉妹との温泉への宿泊、正月に外出に出かけられた方もおられる。	正月に親族と外食(焼肉)に出られた方が、「よかった！よかった！」と満足で帰園されたようであり、身近な方とのひと時がいかに楽しいものであるか伝わってくる。ホームは家族の負担を減らすため、自宅までの送迎をおこなうことを家族へ伝えている。現在のところ依頼されることはないようであるが、引き続き入居者の外出を後押しする取組が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はご家族の承諾を得てお金の管理を職員が行っている。スーパー等へ買い物に行かれる際は分かりやすい財布、バッグに入れスタッフが付き添っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部との連絡を取られる際に困難な場面には支援を行っている。受話器を持つことや番号の選択、手紙の代読、代筆等本人様に必要な支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を基本とし、午前、午後と数回ずつの換気を行い空気の入替え、天気が良いには自然の光を取り入れるようにしている。普段の生活のなかにも天気、気温、自然の匂いで季節感を感じてもらえるよう窓際やウッドデッキで日光浴を行っている。職員の会話や笑い声も不快にならないように気を付けている。	入居者が食事やレクリエーションなど日中のほとんどを過ごすリビングホールでは、訪問当日も遠くの山を眺めながら入居者と職員の談笑や、うたた寝される方など穏やかな時間を過ごされていた。ウッドデッキには入居者手作りの干し大根が下げられ、季節とともに作業の光景も伝わってくる。外出や誕生会、イベントなど日常の活動写真の掲示は、本人や来訪者にとっても楽しみや面会時の会話にもつながっている。	ポータブルトイレや車いすも小まめに洗いウッドデッキで日光干しを行っている。このような取組も家族に伝えることで安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの一日の生活リズムは異なる為、希望される場所(ソファ、畳台、リクライニングチェア)を提供できるようにしている。独りになられる際のリスクをしっかりと職員間で共有している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様の希望を最大限に取り入れ、ご自宅に使用されていた使い慣れた物(タンス、イス、衣装ケース)を使いやすい場所に置き落ち着ける居室作りを心がけている。	居室で過ごす時間が居心地の良いものになるよう、自宅で使用していた家具や必要な小物などの持ち込みを依頼している。木製のタンスなどは少なく、プラスチックの衣装ケースの持参が多い現状である。中にはテレビを持ち込まれ、好きな番組を楽しまれる方もおられる。季節外の寝具や排泄用品などは、押入れに収納でき、整頓された居室を作ることができている。また、使用頻度の少ない衣類などは、持ち帰りを依頼している。	職員は衛生管理の点からも換気や掃除に努めている。居室は寝具からの埃も立ちあがることから、今後も状況を見ながら、必要な掃除に努めていきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、床の清掃、障害物、動線の確認をしっかりと行う様に周知徹底している。居室入口、トイレ入口には標識をし夜間の廊下照明は人知センサーにて明るく対応している。		